



令和6年5月31日

認定こども園

東野田ちどり保育園

東野田ちどりキッズ・庁舎内

江川 永里子

はじめのいっぽ

令和6年度
6月号

9度目となるツバメの里帰りは、我々に季節を伝えてくれます。

コロナ禍も必ずこの時期にヒナが誕生してきました。親鳥からエサをもらう大きな口は何度見ても精一杯の子育てを見せてくれます。

昭和～平成そして、令和の時代へと進む中にも変わらぬ自然の姿からは大きな勇気をもらいます。

常に幼児期に何を子ども達と一緒にしたら良いか？どこまで子どもの力をつけていくのか？どんな寄り添い方が良いか？毎年追求しています。

今回のバーベキューにおいても、子どもに何か手伝ってもらおうとじゃがいもを洗い

アルミホイルに包む事までをしてもらいました。「じゃがいもまだ？」と声が上がりました。自分達に関わったおいものおいしさは格別でした。

おいもの効力についても学びました。食べたものが身体をつくるという意味も丁寧に伝えていこうと思います。



～ アドラー より ～

さらに子どもの話を聴く

5.開いた質問を使う

質問には「はい」「いいえ」で答えられる＜閉じた質問＞と、「はい」「いいえ」だけでは答えられない＜開いた質問＞とがあります。このうち、開いた質問は、人の話を聞かるときに、とても便利です。

開いた質問とは、5W1H といって、「いつ？」「どこで？」「だれが？」「なにを？」「なぜ？」「どんなふうに？」というようなことばを使った質問です。ただし、このうちで「なぜ」はあまり使わない方がいいでしょう。

5W1H の他に、「それで？」「それから？」「もう少し話してくれる？」というような言い方も、開いた質問の一種です。

また、「どういうことがあった？」「どう考えた？」「どう感じた？」「どうしようと思う？」というような開いた質問を続けて使うと、子どもを援助する効果が大きいことがあります。

6.子どもの考えを推量する

＜閉じた質問＞は、子どもの考えを聴くためよりは、むしろ、こちらの考えを子どもに伝えるために使います。たとえば、「あなたは～と考えているのかな？」とか「あなたは～と感じているのかな？」というように。

もしこのような推量が当たっていると、子どもは「親は私の仲間なんだ」と感じて勇気づけられるでしょう。あるいは、言われてはじめて自分がそんなふうに考えていることに気がつくかもしれません。そうすると、自分の考えをまとめることができます。

もしこのような推量はずれていると、子どもは「違うよ」というでしょう。これは、子どものほんとうの考えを聴くきっかけになりますし、親子間の理解が深まるきっかけにもなります。

7.あなたの考えを伝える

子どもの話をじっくり聴いてからであれば、あなたの考えを伝えることもできます。できれば、「私の考えを言ってもいいかな？」と尋ねて、子どもが聞きたいと言ってから言うのがいいと思います。「聞きたくない」と言われれば、引き下がる勇気を持ってください。

子どもがあなたの意見を聞きたいと言ったときも、「それは～だ」と事実として言うよりも、「私は、それは～だと思う」というように、意見であることがわかるように言う方がいいと思います。